

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. D-40

部門名: 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名: 珠洲市立直小学校 小町成美 (平成30年度第2回次世代リーダー育成研修)
活動名: 校内「カリマネ」研修 ～全職員で具現化する学校ビジョン～	
解決すべき課題: 全職員がカリマネを意識し、カリマネマインドを持つこと ①校内研修に「カリキュラム・マネジメント」の視点を取り入れ、実践すること ②研修を通して全職員のベクトルをそろえ、学校ビジョン(学校経営方針)を具現化すること	
目標・方針: カリマネRPDCAサイクルの確立 2018年12月の研修後、年度内に1年間ともに勤務したメンバーで勤務校の実態を把握し、それを次年度の学校ビジョンに生かしていくようなRPDCAサイクルの確立を目指す。そしてRPDCAサイクルの確立に向けた校内研修を計画的に実施することで、全職員がベクトルをそろえて学校ビジョンを具現化してことができると考えた。	
活動内容: 校内「カリマネ」研修計画 ◇学校のカリマネ ◇教科・領域のカリマネ □学年・学級のカリマネ	
2019年2月	◇SWOT分析を行い、勤務校の内外環境の分析をする。(写真1) →強みと弱みなど、本校の良いところを伸ばそう・課題を改善しようという意識を持てた!
3月	◆1年間の生活科・総合的な学習の時間を振り返り、単元配列表を作る。 →教科横断的な視点を持つことができた!
【2019年度スタート】10月に県指定道徳科研究発表	
2019年4月	◇SWOT分析の結果も踏まえた学校経営方針を全職員で共通理解する。 □学校経営全体構想の中に示される「めざす子ども像」から各学級目標を設定する。(写真4) 自己のカリマネへ(写真5) ◇◆□各校務分掌の見直し。 ◆前期学校研究(算数科)スタート。
5月	◆道徳科のカリマネについて考え、重点項目について単元配列表を作る。(表1)
6月	◆道徳科において別葉を使用したカリマネ研修をする。
7月	◆前期学校研究(算数科)の振り返りをする。
8月	◇学校評価分析。(写真2) ◆道徳科を中核としたカリマネ研修をする。(写真3)
9月	◇学校評価分析を生かした取組スタート。 ◆中期学校研究(算数科)スタート。
12月	◆中期学校研究(算数科)の振り返りをする。 ◇学校評価分析。
2020年1月	◇学校評価分析を生かした取り組みスタート。 ◆後期学校研究(算数科)スタート。 ◇SWOT分析を行い、勤務校の内外環境の分析をする。
2月	◆1年間の道徳科と生活科・総合的な学習の時間を振り返り、単元配列表を作る。
3月	◆後期学校研究(算数科)の振り返りをする。
活動の成果: 研修を通して、今、自分が行っていることは学校のカリマネの中の一部であるという意識をもってもらうことができた。ベクトルが少しずつそろい、学校全体で教育活動を行おうとする職員が増えた。 ・カリマネ研修をして、今まで見えていなかった学校の全体像が見えてきた。自分にはまだまだそういう見方ができていないことに気付いた。これから学校全体のつながりを考えていきたい。(1年目教諭) ・昨年度のSWOT分析を反映した取組がまだまだできるのではないかと感じた。次に生かすという視点で、さまざまなカリマネについてより具体的に考えていきたい。(4年目教諭)	
研修後の感想	カリマネマインド 6向上
アピールポイント(アイデアや工夫) ①勤務校は若手が半数以上を占める。学校研究の推進も図りながら、若手研修も行わなければならない。その中で研修を大幅に増やすことなく従来の研修とカリマネに関する研修を兼ねられるよう考慮した。 ②RPDCAサイクルを回し、次へのアクションを見出ししていくことで、カリキュラムの厳選ができた。 ③大きな学校のカリマネRPDCAサイクルの中で小さな他の取組のカリマネRPDCAサイクルが動いている。それを図に表したものが右の「カリマネRPDCAサイクル図」である。	

